

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月14日

【四半期会計期間】 第23期第2四半期(自平成26年7月1日至平成26年9月30日)

【会社名】 クオール株式会社

【英訳名】 QoI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中村 勝

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー37階

【電話番号】 03 - 6430 - 9060

【事務連絡者氏名】 常務取締役 福満 清伸

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー37階

【電話番号】 03 - 6430 - 9060

【事務連絡者氏名】 常務取締役 福満 清伸

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第22期 第2四半期 連結累計期間	第23期 第2四半期 連結累計期間	第22期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(百万円)	49,022	55,621	100,966
経常利益	(百万円)	1,068	1,570	2,208
四半期(当期)純利益	(百万円)	361	678	777
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	352	661	797
純資産額	(百万円)	16,787	17,779	17,374
総資産額	(百万円)	48,238	57,969	53,904
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	12.31	20.76	25.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	34.8	30.1	31.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	960	1,063	2,350
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,231	3,425	8,383
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,110	3,251	5,722
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	6,107	5,848	4,957

回次		第22期 第2四半期 連結会計期間	第23期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	5.68	13.78

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高に消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
4. 当社は、従業員持株E S O P信託制度を導入しており、当該信託にかかる従業員持株E S O P信託口が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式として計上しております。従って、1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定にあたっては、当該株式数を自己株式に含めて「普通株式の期中平均株式数」を算定しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または、締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成26年4月に実施された消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動はあるものの、企業収益、雇用・所得環境に改善がみられるなど、緩やかな回復基調の動きがみられました。

保険薬局業界においては、平成26年4月に調剤報酬改定及び薬価改定が実施され、厳しい経営環境となっております。

このような環境のもと、当第2四半期連結累計期間における当社グループ連結業績は、売上高55,621百万円(前年同期比13.5%増加)、営業利益1,551百万円(前年同期比52.6%増加)、経常利益1,570百万円(前年同期比47.0%増加)、四半期純利益678百万円(前年同期比88.0%増加)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

保険薬局事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、既存店売上加え、平成25年10月以降の新店及び新規取得子会社の売上が寄与し、堅調に推移いたしました。出店状況につきましては、新規出店12店舗、子会社化による取得8店舗の計20店舗を出店した一方、閉店により6店舗減少した結果、当社グループ全体での店舗数は直営店532店舗、フランチャイズ店2店舗となりました。この結果、売上高は前年同期比5,669百万円増加し50,103百万円(前年同期比12.8%増加)となりました。営業利益は、主に新規取得子会社の利益が寄与し、前年同期比138百万円増加し1,643百万円(前年同期比9.2%増加)となりました。

その他事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、主にCSO事業を営むアポプラスステーション株式会社の業績が寄与した結果、売上高は前年同期比930百万円増加し5,518百万円(前年同期比20.3%増加)、営業利益は前年同期比356百万円増加し389百万円(前年同期比1,097.7%増加)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、57,969百万円となり、前連結会計年度末から4,065百万円増加しております。

これは主に、現金及び預金が812百万円、受取手形及び売掛金が3,288百万円増加、商品及び製品が1,562百万円減少し、流動資産合計が2,350百万円増加したことによるものであります。また、のれんが1,920百万円増加したことにより、無形固定資産が1,887百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、40,190百万円となり、前連結会計年度末から3,660百万円増加しております。

これは主に、長期借入金が4,053百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、17,779百万円となり、前連結会計年度末から405百万円増加しております。

これは主に、利益剰余金が352百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが1,063百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが3,425百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが3,251百万円の収入となりました。この結果、当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ890百万円増加し、5,848百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益1,512百万円、減価償却費771百万円及びのれん償却額710百万円等により、1,063百万円の収入（前年同期960百万円の収入）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出729百万円及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出2,635百万円等により、3,425百万円の支出（前年同期5,231百万円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入による収入7,708百万円、長期借入金の返済による支出2,428百万円等により、3,251百万円の収入（前年同期5,110百万円の収入）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	33,148,500	35,845,500	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	33,148,500	35,845,500		

(注) 平成26年8月20日開催の取締役会決議により、平成26年10月1日付で当社の連結子会社である株式会社セントフォローカンパニーと株式交換いたしました。これにより株式数は2,697,000株増加し、発行済株式総数は35,845,500株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日		33,148,500		2,828		2,487

(注) 平成26年8月20日開催の取締役会決議により、平成26年10月1日付で当社の連結子会社である株式会社セントフォローカンパニーと株式交換いたしました。これにより株式数は2,697,000株増加し、発行済株式総数は35,845,500株となっております。

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社メディカルホールディングス	東京都中央区八重洲二丁目7番15号	7,582,800	22.88
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライスド ストック フ アンド(プリンシパル オール セク ター サポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京UF J銀行)	82 DEVONSHIRE ST BOSTON MASSACHUSETTS 02109360582 (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号決 済事業部)	2,049,000	6.18
中村 敬	東京都練馬区	1,622,000	4.89
株式会社ローソン	東京都品川区大崎一丁目11番2号	1,311,800	3.96
第一三共株式会社	東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号	1,304,000	3.93
株式会社大本組	岡山県岡山市北区内山下一丁目1番13号	1,304,000	3.93
クオール従業員持株会	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー37階	1,194,800	3.60
株式会社トリム	兵庫県神戸市中央区磯辺通三丁目1番7号	1,104,000	3.33
大原薬品工業株式会社	滋賀県甲賀市甲賀町鳥居野121番15号	787,100	2.37
田辺三菱製薬株式会社	大阪府大阪市中央区北浜二丁目6番18号	780,000	2.35
計		19,039,500	57.44

(注) 上記のほか、自己株式376,200株(うち、当社所有154,600株、従業員持株E S O P信託口221,600株)があり、発行済株式総数に対する割合は1.13%であります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 154,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,992,600	329,926	
単元未満株式	普通株式 1,300		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	33,148,500		
総株主の議決権		329,926	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、従業員持株E S O P信託口名義の株式221,600株が含まれております。また、「議決権の数(個)」欄には、同名義の完全議決権株式に係る議決権の数2,216個が含まれております。
2. 平成26年8月20日開催の取締役会決議により、平成26年10月1日付で当社の連結子会社である株式会社セントフォローカンパニーと株式交換いたしました。これにより株式数は2,697,000株増加し、発行済株式総数は35,845,500株となっております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
クオール株式会社	東京都港区虎ノ門 四丁目3番1号 城山トラストタワー37階	154,600	221,600	376,200	1.13
計		154,600	221,600	376,200	1.13

(注) 他人名義で所有している理由等

平成24年3月14日開催の取締役会決議により導入した従業員持株E S O P信託による株式の取得として、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株E S O P信託口・75524口)東京都港区浜松町二丁目11番3号)が所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,162	5,974
受取手形及び売掛金	10,940	14,228
商品及び製品	5,954	4,392
仕掛品	60	188
貯蔵品	135	126
繰延税金資産	710	714
その他	1,174	858
貸倒引当金	19	15
流動資産合計	24,117	26,468
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,690	4,685
工具、器具及び備品（純額）	1,244	1,141
土地	2,228	2,218
その他（純額）	145	108
有形固定資産合計	8,309	8,153
無形固定資産		
のれん	16,317	18,238
ソフトウェア	843	785
その他	149	174
無形固定資産合計	17,311	19,198
投資その他の資産		
投資有価証券	547	555
敷金及び保証金	2,690	2,576
繰延税金資産	309	317
その他	602	686
貸倒引当金	2	2
投資その他の資産合計	4,147	4,132
固定資産合計	29,767	31,484
繰延資産		
社債発行費	18	16
繰延資産合計	18	16
資産合計	53,904	57,969

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	14,704	14,647
短期借入金	2,020	440
1年内返済予定の長期借入金	3,713	5,135
未払法人税等	470	871
賞与引当金	1,266	1,485
その他	3,276	2,661
流動負債合計	25,450	25,241
固定負債		
社債	1,624	1,462
長期借入金	8,360	12,414
繰延税金負債	56	42
役員退職慰労引当金	302	309
退職給付に係る負債	135	147
資産除去債務	473	472
その他	125	98
固定負債合計	11,078	14,948
負債合計	36,529	40,190
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,828	2,828
資本剰余金	9,085	9,087
利益剰余金	5,371	5,723
自己株式	298	228
株主資本合計	16,987	17,410
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46	20
その他の包括利益累計額合計	46	20
少数株主持分	339	347
純資産合計	17,374	17,779
負債純資産合計	53,904	57,969

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	49,022	55,621
売上原価	43,785	49,362
売上総利益	5,236	6,259
販売費及び一般管理費	4,219	4,707
営業利益	1,016	1,551
営業外収益		
受取家賃	13	22
受取手数料	21	25
保険解約返戻金	68	0
持分法による投資利益	1	-
補助金収入	5	11
その他	50	51
営業外収益合計	160	111
営業外費用		
支払利息	62	67
株式交付費	23	-
その他	23	25
営業外費用合計	109	92
経常利益	1,068	1,570
特別利益		
固定資産売却益	20	0
事業譲渡益	16	-
その他	-	0
特別利益合計	37	0
特別損失		
固定資産売却損	11	4
固定資産除却損	99	19
減損損失	-	35
特別損失合計	110	59
税金等調整前四半期純利益	994	1,512
法人税等	620	825
少数株主損益調整前四半期純利益	374	686
少数株主利益	13	7
四半期純利益	361	678

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	374	686
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	25
その他の包括利益合計	21	25
四半期包括利益	352	661
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	340	653
少数株主に係る四半期包括利益	12	7

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	994	1,512
減価償却費	720	771
のれん償却額	570	710
持分法による投資損益(は益)	1	-
退職給付引当金の増減額(は減少)	14	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	7
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	-	7
賞与引当金の増減額(は減少)	133	189
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	4
株式交付費	23	-
固定資産除売却損益(は益)	90	22
減損損失	-	35
事業譲渡損益(は益)	16	-
受取利息及び受取配当金	12	10
支払利息	62	67
たな卸資産の増減額(は増加)	328	1,613
売上債権の増減額(は増加)	96	2,783
仕入債務の増減額(は減少)	15	706
その他	528	128
小計	1,773	1,562
利息及び配当金の受取額	10	8
利息の支払額	64	68
法人税等の支払額	759	438
営業活動によるキャッシュ・フロー	960	1,063
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	168	87
定期預金の払戻による収入	140	214
有形固定資産の取得による支出	680	729
有形固定資産の売却による収入	44	27
投資有価証券の取得による支出	-	49
投資有価証券の売却による収入	-	3
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	4,266	2,635
事業譲渡による収入	75	-
無形固定資産の取得による支出	161	170
貸付けによる支出	-	2
貸付金の回収による収入	33	2
敷金及び保証金の差入による支出	81	88
敷金及び保証金の回収による収入	56	231
その他	223	141
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,231	3,425

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	83	1,580
長期借入れによる収入	2,922	7,708
長期借入金の返済による支出	1,958	2,428
社債の発行による収入	1,262	-
社債の償還による支出	161	161
株式の発行による収入	3,381	-
自己株式の処分による収入	63	70
配当金の支払額	306	325
その他	8	30
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,110	3,251
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	838	890
現金及び現金同等物の期首残高	5,268	4,957
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,107	5,848

【注記事項】

(会計方針の変更)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱いの適用)

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成25年12月25日)を第1四半期連結会計期間より適用しておりますが、従来採用していた方法により会計処理を行っております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当社は、従業員への福利厚生を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

(1) 取引の概要

当社が「クオール従業員持株会」(以下、「当社持株会」という。)に加入する従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者とする信託を設定し、当該信託は平成29年6月までに当社持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を、予め定めた取得期間中に取得しております。その後、当該信託は当社株式を毎月一定日に当社持株会に売却します。信託終了時に、株価の上昇により信託収益がある場合には、受益者たる従業員の拠出割合に応じて金銭が分配されます。株価の下落により譲渡損失が生じ信託財産に係る債務が残る場合には、金銭消費貸借契約の保証条項に基づき、当社が弁済するため従業員の追加負担はありません。

(2) 「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成25年12月25日)を適用しておりますが、従来採用していた方法により会計処理を行っております。

(3) 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託における帳簿価額は前連結会計年度288百万円、当第2四半期連結会計期間218百万円であります。信託が保有する自社の株式は、株主資本において自己株式として計上しております。

期末株式数は前第2四半期連結累計期間453千株、当第2四半期連結累計期間221千株であり、期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間517千株、当第2四半期連結累計期間284千株であります。期末株式数及び期中平均株式数は、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行17行（前連結会計年度16行）と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
当座貸越極度額の総額	11,280百万円	11,690百万円
借入実行残高	1,970	390
差引額	9,310	11,300

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
給与手当	1,029百万円	1,048百万円
役員報酬	375	399
地代家賃	257	373
退職給付費用	24	31
賞与引当金繰入額	82	158
減価償却費	152	178
のれん償却額	570	710

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	6,234百万円	5,974百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	127	126
現金及び現金同等物	6,107	5,848

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月14日 取締役会	普通株式	306	12	平成25年3月31日	平成25年6月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	260	8	平成25年9月30日	平成25年12月2日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、第2四半期連結累計期間におきまして公募増資及び第三者割当増資を行っており、資本金が1,702百万円、資本剰余金が1,702百万円増加しております。

また、当社を株式交換完全親会社、株式会社レークメディカルを株式交換完全子会社とする株式交換を実施しており、資本剰余金が225百万円増加しております。

その結果、当第2四半期連結会計期間において資本金は2,828百万円、資本剰余金は9,087百万円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月15日 取締役会	普通株式	326	10	平成26年3月31日	平成26年6月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月31日 取締役会	普通株式	262	8	平成26年9月30日	平成26年12月1日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	保険薬局事業	計				
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	44,434	44,434	4,587	49,022		49,022
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	9	9	303	312	312	
計	44,443	44,443	4,890	49,334	312	49,022
セグメント利益	1,504	1,504	32	1,537	520	1,016

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	保険薬局事業	計				
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	50,103	50,103	5,518	55,621		55,621
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	6	6	204	211	211	
計	50,110	50,110	5,723	55,833	211	55,621
セグメント利益	1,643	1,643	389	2,032	480	1,551

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療・医薬情報資材制作関連事業、医薬品治験関連事業、労働者派遣・紹介事業、グループ内業務代行業業、医療関連経営コンサルティング事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	12	28
全社費用	533	509
合計	520	480

全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

(のれんの金額の重要な変動)

「保険薬局事業」セグメントにおいて、株式会社アルファームの全株式を取得し、連結子会社といたしました。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては3,356百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	12円31銭	20円76銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	361	678
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	361	678
普通株式の期中平均株式数(株)	29,330,332	32,709,579

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成26年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、以下のとおり決議いたしました。

- (1) 中間配当による配当金の総額 262百万円
- (2) 1 株当たりの金額 8円00銭
- (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成26年12月 1 日

(注) 平成26年 9 月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払を行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月14日

クオール株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 守 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊 藤 孝 明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているクオール株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、クオール株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。